

南風 (ふえー)

琉球大学医学部医学科同窓会報Vol.15No.1

〒903-0125 沖縄県西原町字上原178番地 サンテラス屋良T-3

TEL&FAX 098-944-7445

E-mail:i-dousou@nirai.ne.jp

URL:http://www.geoweb.ne.jp/medical/

琉球大学医学部医学科同窓会発行

2007年7月2日

印刷 沖縄ココニー印刷

## 第15回 琉球大学医学部医学科同窓会通常総会のお知らせ

琉球大学医学部医学科同窓会会長 増田 昌人 (2期生)



向夏の候、同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

最初に、本年3月に21期生の卒業により、卒業生総数が2,020名となり、正会員がついに2,000名を超えたことをご報告いたします。正会員が沖縄県内の医師に占める割合は四割を超え、特に県内の女性医師に占める割合は5割を越えました。本会は沖縄県医師会に次ぐ規模の団体となっており、昨今の離島医療や産婦人科医不足の問題等に関して、沖縄県から公式、非公式に意見を聞かれるなど、その重要性が年々高まっていることはご存知の通りです。

さて、今年も同窓会通常総会の開催時期となりました。今年の総会は、例年の議題以外に、

- 1 2年間の任期満了に伴う役員の改選
- 2 同窓会ホームページの改訂 (全体および期毎の会員掲示板、求人情報、ネットワーク作り、人材バンク等の構築が可能なホームページへの転換、等)
- 3 東日本、西日本、鹿児島 の3支部に対する同窓会本部の助成拡充 (助成金の新設、事務手続き代行の拡充、等)
- 4 学生会員に対する正会員による進路相談員制度の新設
- 5 平成21年開催予定の第61回西日本医科学学生総合体育大会の主管校としての準備状況等の、重要案件の審議や報告があります。会員の皆様のご出席をよろしくお願いいたします。

総会終了後は、例年通り懇親会を予定しています。気心の知れた仲間、或いは初めて出会う同窓生とともに、旧交を温めるだけでなく、情報交換の場としても大きな意味のある場となることと思います。

同窓会会員同士の親睦を深め、我が琉球大学医学部医学科をますます盛り立てるため、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

### 記

日 時：平成19年7月28日 (土) 午後7時から

場 所：ラグナガーデンホテル 平安の間 (総会会場)

明海の間 (懇親会会場)

(宜野湾市真志喜4-1-1 電話 098-897-2121)

**\*総会終了後、懇親会があります(会費5千円、午後10時まで)。**

その後は同期生毎に、2次(3次?)会をお楽しみ下さい。

追 伸

\* 多くの会員の皆様が都合をつけやすいよう、今後は毎年7月の第4土曜日に行います。

\* お手数ですが、出欠の有無を同封のハガキにて7月20日までに返信ください。



退官教授あいさつ

## 退官の雑感

(前 解剖学第二 教授) 安 澄 文 興

琉球大学医学部医学科開設に伴い、宮崎医科大学から解剖学第二講座の初代教授として赴任して25年、長いようでも過ぎてしまえば豊臣秀吉の心境と同じ。大きな目標である教育と研究で、自分は教育の方により多くのエネルギーを注いだと確信している。医学科の学生は無論のこと、看護学校、消防学校の救急課程の学生達を担当したが、いずれの場合も課程が終了した時に、常に感じてきたことは虚無感であった。とは言え25年も熱意を失わずにやっていると、その功を認めてくれる所も在り、沖縄県の推挙で総務省の消防長官より特別功労者として表彰され、皇居に行ってきたのが一つの結果だと思っている。

私も一応社交辞令として、今まで教育を担当してきた学校や大学の将来の発展を希望しますが、現在の日本教育の卒業レベルでは非常に難しい事だと言えます。何名の学生を世に送り出したか、新しい建物を建築したかは、単に現代社会のニーズに合わせただけ、大事なことは、卒業した学生達が高い見識を持って、将来をしっかりと予測しているかに現状を変えられるかである。それには多くの見識の高い人たちが集まって変化させる方法を練らねばならない。変化をさまたげている原因の把握

が先ず大切である。

余り可能とは思わないが一つ提言を記しておく。世界の色々な国で学生の勉学態度を見てきたが、日本の学生ほど勉強意欲のない国は他に例を見ない。また評価する教育人も学生に良く思われたいために、著しく低い評価レベルで合格させてしまうことは、以前より日本の常識であり、また広く世界の知るところでもある。従って全ての分野で高いレベルの専門家が排出されない。確かに一握りの学生達は意欲を持っているが、これも周りと比較した時のことで、世界水準からは程遠い。しかも勉強するのも専門教育過程の中であり、一般教育となると殆ど居ない上に、幾らサボっても問題も無く卒業できるのが日本の教育の実際である。

とは言え今のレベルでも可能なことは、各個人は自分のレベルを信じるのであれば、発言は常に論理的でなければならない。何が正しいかで議論しないと何も改革できないし、改革と称してやってきたことが、数年すれば反対になる。最近の最たる例は、ゆとりの時間と言ってきたことに象徴される。一体なんだったのかを決して評価しない？



新任教授あいさつ

## 解剖学教室の未来

形態機能医科学講座 解剖学第二分野 教授 高山 千利

安澄文興初代教授の後任として4月1日付で赴任しました。私は、1962年生まれですので、琉球大学医学部の1期生と同級になります。高校卒業まで、実家のある広島市で暮らし、慶應義塾大学医学部卒業後、直ぐに北海道大学医学部解剖学第一講座に赴任し、以後約20年間、札幌に住んでおりました。この度、縁あって琉球大学に来ましたが、2000キロを越える異動、沖縄の生活に慣れるのに苦労しています。

学部教育では、組織学・神経解剖学・発生学を担当します。医学部学生にとって、専門課程の最初に出会う難関科目になるかもしれませんが、より、わかりやすく、そして、学問のための解剖学ではなく、臨床医になるために必要な解剖学を心がけて教育を行っていきたいと思っています。

研究面では、神経解剖学を専門とし、顕微鏡を用いて脳の切片を観察し、神経回路と、神経回路を構成している様々な分子の発現・局在を解析しています。人体の中で最後に残された秘境として、脳が世界的に注目されています。さらに、脳の疾患は、患者の職場、家族、そしてそれを取り巻く社会に大きな影響を及ぼし、少子高齢化社会においては、その発症機序の解明、治療法の開発は最重要課題になっています。私は、抑制性神経伝達

物質として知られるGABAに注目し、解析しております。近年、GABAは、その機能が特に注目され、多くの脳疾患とのつながりが明らかになってきました。

以下解剖学教室について書きます。私が解剖学教室に入った頃は、大変のどかで、ノンビリしており、教育負担は非常に大きいものでしたが、ビール片手に夢を語りあい、将来の展望は明るいものでした。しかし、最近5～6年のアメリカの大学に似せた制度の導入により、競争という名の下に、大学組織の様相が一変し、そのあおりをもっとも受けたのが解剖学教室です。国内においても、解剖学教授を持たない大学も出てきましたし、従来2つ以上あった解剖学の講座は1つに統合されてきています。解剖学の教育、形態学の研究は、医師養成のため、生命研究の分野において必要不可欠であることは間違いありませんが、研究者として、研究室として構えるに見合うだけの成果をあげているかが大いに問われる時代になりました。大変厳しい世の中になりましたが、精一杯努力し、解剖学教育、そして神経科学の研究者として必要とされ続けられるよう努力したいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。



新任教授あいさつ

## 薬 剤 部 長 に 就 任 し て

琉球大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 宇 野 司

平成19年5月1日付で、芳原準男前教授の後任として琉球大学医学部附属病院薬剤部長を担当させていただくことになりました宇野 司と申します。今後、薬剤部スタッフとの意志疎通を図り、高度で安全な医療へ貢献できるよう日々努力し、グレードアップできればと考えております。今後ともご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

私は昭和60年に東京薬科大学を卒業後、故郷青森に帰り、まず五所川原市立西北中央病院（560床）薬剤部で働き、その後弘前大学医学部附属病院（630床）薬剤部に移り、病院薬剤師として20年以上働いて参りました。私が働き始めた当初、主だった薬剤業務は調剤であり、現在のような調剤薬局やオーダーリングシステムはなく、すべてが院内処方せんで占められ、年末年始やゴールデンウィーク前には1人で500枚以上処方せんの錠剤を手作業で詰めていたことを思い出します。現在のリスクマネジメント面から考えますと非常に恐ろしいことで、時に間違えてお住まいまで届けに行ったことを今でも思い出します。しかし、その頃、当時の弘前大学医学部附属病院薬剤部長の菅原教授（現青森大学薬学部教授）より、母乳中に移行する薬物の研究をしてみないかという勧めがあり、私が臨床研究をはじめのきっかけとなりました。長年抗甲状腺薬を服用されている患者の母乳中より、血液中と同じぐらいの薬物が検出されたときには、実際に測定できたという喜びもあ

りましたが同時に胎児の被爆もあり得ることを直に感じ、恐ろしさを覚えたものです。その後、日々の業務に従事しながら、薬物定量法、特にHPLC（高速液体クロマトグラフィー法）のノウハウに磨きをかけ、短時間で高感度なさまざまな医薬品の、患者や健常被験者での血中濃度測定や相互作用検討を行い、その後報告致しました。当然、これら臨床試験は薬剤部独自ではあり得ないわけで、薬理学講座、神経精神医学講座、消化器外科学講座、臨床検査医学講座等との様々な共同研究を持ちまして、成り立ってきたものです。平成17年には日々共同研究させて頂いていた立石智則教授の懇意にて弘前大学医学部臨床薬理学講座に移り、医薬品体内動態の決定因子である代謝酵素の遺伝子多型と薬物トランスポータの研究に着手致しました。これらは現在も継続しており、当薬剤部でも可能な限り、業務以外に研究と教育を兼ね備えた薬剤師の育成に努め、臨床の場にご奉仕できればと考えております。

さらに薬剤部業務は、現在多岐多様に渡っており、臨床的な専門化に移行しております。今さらながら、診療科または各講座のみなさまのご協力なくては成りえない部署となってまいりました。今後、沖縄県や関連地域の医療、さらには琉球大学医学部ならびに附属病院の発展に、微力ではありますが貢献できればと考えております。今後薬剤部共々、よろしくお願い申し上げます。

# 講座紹介



## 皮膚科医局改装中

器官病態医科学講座・皮膚科学分野  
平良清人 (12期生)

皆さんこんにちは。12期生の平良清人です。今回は皮膚科医局を紹介させていただきます。平成18年度より前任の野中薫雄教授の退官に伴い上里博教授に代わりました。上里教授は「みんなが仕事しやすいように。そのためにこうした方がいいとアイデアがあれば教えて。」とおっしゃいます。それと同時に、現在の臨床研修を終えた新入局員が加わりました。彼らはアグレッシブに学ぼうとするため僕らもつられて勉強せねばと言う雰囲気です。そこで教室員で皮膚病理の教科書を輪読する事を始めました。皮膚病理ではLeverという有名な教科書がありますが、病理でしかも英語であるためなかなか取っつきにくい物です。しかしみんなで勉強し、ついでに英語力がつけばと思います。現在その効果はまだまだ未知数ですが・・・。また、学会発表、論文投稿についても上里先生の熱心な指導を受けながら新入局員も原稿書きに追われています。皮膚科の専門医は論文3編が必要なため、論文提出も積極的に取り組むようになりました。研究の方は2名の大学院生がいて中心となって実験を行っています。主にHPVやカポジ肉

腫の遺伝子・病理特殊染色診断、真菌学を行っています。また、寄生虫症のリーシュマニア症の研究も行っています。寄生虫を捕りにエクアドルやペルー、パキスタンに行き、フィールドワークを行ったりしています。もっと多くの大学院生がいれば幅広く研究できるのにも思います。まだまだやりたいことは沢山あると上里教授はおっしゃいますが医局員の少なさもありもどかしい思いをしています。しかし、後4-5年たつと今の新入局員が中心となって皮膚科黄金時代を作ってくれる物と信じてがんばっています。現在はそのための育成システムを模索している状態とも言えます。

臨床の方は医局長の山本雄一先生を中心に外来・病棟で忙しくしています。医局の人数は少ない上に仲が良いので難しい症例があると教授をはじめ他の先生にもすぐに相談しやすいと言う利点があります。皮膚悪性腫瘍などは大学に送られてくることが多いので皮膚科といえども結構大変です。

とりあえず臨床・研究とも少人数の教室ですがその分、和気藹々とした所になっています。興味のある方は一度皮膚科医局を覗いてみてください。



# 近況報告

## ビバ！生命統御医科学教室☆

女性・生殖医学（産婦人科学）大学院生  
（医学研究科生命統御医科学教室に出勤中）

久高 亘（12期生）

同窓生の皆様、初めまして、平成10年卒業の久高亘と申します。12期生の皆様、お久しぶりです。お変わりありませんでしょうか。私は、琉大卒業後、そのまま琉大産科婦人科学教室に入局し、早9年が過ぎました。入局後5年目に専門医資格を取得、7年目からは、大学院へ進学し、日々、日夜、研究に明け暮れる生活を送っています。現在、お世話になっている教室は、陣野吉廣教授率いる医学研究科生命統御医科学教室で、その他の教室構成員は、小田高也准教授、坂本秀樹助教、神山聡子大学院生（修士課程）、幸地貴子技官、の方々です。私の研究課題は「ヒト内在性レトロウイルス（HERV）と胎盤機能および疾患との関連性の検討」で、ヒト胎盤特異的に発現するHERVの役割を研究してきたのですが、いろんな方の協力を得て、データらしきものが、最近になって漸く出そろい、今は論文作成に勤しんでいるところです。ところで、教室の雰囲気は最高に良く、陣野教授を中心に、教室の研究テーマであるエピジェネティクスについて熱く、活発なディスカッションが行われる一方、冗談好きな陣野教授と、これまた冗談大好きな坂本助教を中心に、巧みで、切れ味鋭い、ユーモア溢れた会話に、教室員一同、笑顔の絶えない日々を送っています。陣野教授は、一流誌ネイチャー等に論文を発表するだけあって、さすがに頭のキレが鋭く、話題も、あっという間に次から次へと展開していき、私などは、ついて行けずに見失うこともしばしばありますが、とにかく素晴らしい研究者であると同時に、人間味溢れる方です。また、小田准教授は、米国NIHで素晴らしい研究成果を挙げ、琉大に赴任されましたが、研究活動と同じくら

い、課外活動、すなわち呑み会にも積極的に参加され、教室員と宴を楽しんでいます。今年度から赴任された坂本助教は、大阪大学タンパク質研究所出身で、研究に対する情熱は凄まじいものがありますが、一方、大阪で鍛えられた「笑い」に対するセンスも秀逸で、今年から、教室の雰囲気も、輪をかけて明るくなり、教室の未来も前途洋々といった感じです。そんな生命統御医科学教室ですが、目下の悩みとして、来年度以降の大学院生確保のめどが立っていない、ということがあります。せつかくの素晴らしい研究環境、教室の雰囲気なのに、これは非常に残念で、もったいないことなので、この場を借りて同窓生の皆様にお願ひがあります。もし、当教室に僅かばかりの関心でも持たれた方がいらっしゃいましたら、是非、当教室ホームページ（URL: <http://w3.uryuky.ac.jp/seimei/>）をご覧ください。そして当教室への大学院進学に少しでも興味を持たれたら、ご一報下さい。心よりお待ちしております。最後に、近況報告なのか、教室紹介なのか分からない文章になってしまいましたが、拙文を掲載させていただく機会を与えてくださった、14期生、仲間靖氏に感謝いたします。



# 研修医近況報告

## 初期研修の半ばにて ～これから研修先を決める後輩へ～

琉球大学附属病院 卒後臨床研修センター  
2年目研修医 有賀拓郎 (20期生)

RyuMICの3期生として研修医2年目を迎えることができました、有賀と申します。

研修医として日々充実した毎日を過ごしております。さて、突然ですが大学病院の研修ってどんなイメージですか？『雑務が多く医者としての仕事が少ない』『commonな疾患が診れない』『給料が安い』等々、想像されるかと思いますが、全くその通りです！他院では医事課やナースがする仕事が、当たり前のように研修医の仕事として明示されます。患者さんはやけに複雑で、単純な肺炎や糖尿病など皆無、心不全・腎不全合併の粟粒結核やミトコンドリア脳筋症疑いの糖尿病患者なんてのがザラにいます。もちろん給料は生活できるほど充分いただけますが、他院で行われるような当直手当がないため県内最低(笑)です。ですが、雑務が多い⇒コスト意識や医療にかかわる諸手続き、必要な道具の準備や保管の理解につながります。開業してもコストや書類関係は大事ですし、外科では手術云々の前に準備がどれだけできるかが、その人の初期評価に非常に重要な

位置をしめています。準備ができなければ手術はできないんです。コモンな症例が少ない⇒マニュアル医療ではなく、自分で調べ考える能力が、否が応でも身に付きます。また、豊富な専門の指導陣がいること、かつ院内にてコンサルトできる環境があるのも魅力的です。給料が安い⇒当直がなければその分自分の時間が持てます。勉強するもよし、趣味を謳歌するもよし、家族サービスするもよし。先輩の男性医師が研修中に育休を取った例もあります。いずれにせよやる気があればの話ですが。

また、後期研修以後のビジョンを持ちやすいのも大学の魅力です。3年目や4年目、10年20年以上の先輩方がたくさんいらっしゃるの、短期的な将来像ではなく長期的な進路決定を、比較的思い描きやすい環境にあります。

加えて、常時40人以上の研修医が在籍する病院も県内にはここと中部しかありません。他院では専用の机が与えられたりしますが、うちは大部屋が2つだけです。なので毎日顔を合わせながら食事したり、勉強したり。先日もビーチパーティーを開くなど学年関係なく非常に和気あいあいとしています。進路決定の助けになれば幸いです。



# 医学科同窓会主催 第4回 学生会員向け 講演会開催される

日時：平成19年3月17日（土） 午後2時～5時

座長：田名 毅（4期生）

同窓会副会長

（首里城下町クリニック第一 院長）

〔演者〕

「基礎医学者と基礎医学教育者」

砂川 昌範さん（6期生）（琉大医学部形態機能医科学講座 生理学第一分野 助手）

「小児科の魅力」

當間 隆也さん（3期生）（県立南部医療センター・こども医療センター  
小児総合診療科 小児科副部長）

「臨床研修との関わりの中で」

武村 克哉さん（10期生）（琉大医学部附属病院 卒後臨床研修センター 助手）

「働くこと こどもと暮らすこと」

仲本千佳子さん（7期生）（名護療育園 小児科 病棟医長）



## 学生向け講演会を振り返って

副会長

田名 毅（4期生）

（首里城下町クリニック第一）

学生向け講演会は今回で第4回目でした。今回も基礎、臨床の各分野で活躍されている同窓会会員の先生方にご講演頂きました。それぞれの立場から学生の皆さんに伝えたいメッセージをお話頂きましたので、大変意義深い講演会になりました。

それぞれの先生のお話を紹介しますと、まず基礎研究者を代表して第一生理学教室の砂川昌範先生（6期生）にこれまでの、そしてこれからの研究生活について語って頂きました。基礎研究の素晴らしさ、おもしろさをわかりやすく話してもらいました。留学の様子までご紹介頂いたので将来海外に行きたいと夢見ている学生には大変刺激になったと思います。次に市中病院の代表として県立南部医療センター・こども医療センターの小児科副部長の當間隆也先生（3期生）でした。医療センターの現状の紹介、そして沖縄の小児医療の抱える問題点まで現場の生の声を聞かせてもらえました。子供のみならず親までみる小児科の苦労もあるが、逆にそこにやりがいを感じるという先生のお話は学生の参加者にとっても小児科の魅力を確認することができたことと思います。三番目にお話頂いたのは大学の臨床、特に研修医の面倒見役として活躍されている卒後臨床研修センターの武村克哉先生（10期生）にご講演頂きました。中部病院での初期研修、国立循環器病センターでのレジデント時代、そして現在の研修医とのかかわりから先生が若いこれからの学生に期待することを話して頂きました。研修医の先生にも是非聞かせたいお話でした。最後に登場いただいたのは女性医師の立場から名護療育園の仲本千佳子先生（7期生）でした。先生はお子さ

んを出産した経験から、家庭と仕事の両立の難しさ、そして医療現場での子育てをする女性医師に対する理解の大切さを語ってもらいました。女性医師が増える中でまさに全国の医療界が抱えているこの



砂川昌範さん（6期生）

問題を、実体験に基づき感情をこめてお話いただけただので、学生にも大変参考になったようでした。ご講演頂きました先生方にこの場を借りて再度御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ただ、残念でしたのは回数を重ねるにつれ学生の参加者が徐々に減っていることです。今回は評議員会で是非学生の参加のよびかけをして欲しいと学生評議員にお願いしたのですが、丁度日程が九州山口地区医科学学生体育大会の準備期間、卒業生の留送会と重なり、今回も参加者の増加にはつながりませんでした。執行部としても学生の講義日程、課外活動の情報を十分に入手しながら、今後の講演会の開催時期を再度検討したいと考えています。今後も1年に1回（5月の土曜日の午後）のペースで本講演会は継続していきたいと考えていますので、今後とも宜しくお願い致します。

※本講演会の様子はビデオ収録していません。当日に参加できなかったためご覧になりたい方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。



當間隆也さん（3期生）

## 学生会員向け講演会に参加して

医学科3年次 水野 遼子

今回の講演会では、砂川先生、當間先生、そして仲本先生と、同じ医師でありながら異なった分野を選ばれた三人の先生方に、普段なかなかお聞きすることのできないそれぞれの現場の様子や人間関係に至るまで様々な経験談を聞かせていただきました。

砂川先生からは、若い頃は宇宙に興味があったという意外なお話をいただきました。私は基礎研究にも興味があり、基礎研究の現場の様子を知りたいなと思っていたので、先生が学生時代に小杉教授の研究室で研究の手伝いをしていた頃のお話を聞いたりして、少し基礎研究の現場が身近に感じられました。

當間先生からは県立こども医療センターの実情や今後の展望を聞かせていただきました。

大変忙しいというお話の内容にも関わらず、當間先生が講演中始終にこやかに話されていたのが印象的でした。

仲本先生からは、育児のために数年間医療の第一線から退くというセミリタイアの体験談を聞かせていただきました。セミリタイアという選択肢の存在さえ私は初めて知りましたが、仲本先生のお話の中で印象的だったのは、セミリタイアしていた間は、育児の体験をすること自体が小児科医としてのスキルアップにつながるとして主婦業に没頭していたとおっしゃっていたことです。こうして文字に

してしまえば当然の事のように聞こえますが、おそらく仲本先生がセミリタイアという選択肢を選ぶ際には、一人の医師としての自分のスキルや、現場での人間関係など他に考慮する要素が多いために、このような考え方を貫き通すには一人の女性としてどう生きたいかという強い信念と行動力が必要であったろうと思いました。将来子供を持ちたいなあと考えているだけの私には、まだ信念も覚悟も足りていないと感じました。

私達はこれから様々な選択を迫られることと思います。医療現場の状況はどんどん変化して行くかもしれませんが、医師として考えたり感じたりすることの中にはきっと時代が変わっても普遍なことが多いのではないかと思います。ですから、私が選択を迫られた時、先輩方の経験談を判断材料にさせてもらえたらそれ程心強いことはないなと思いました。



武村克哉さん (10期生)



中本千桂子さん (7期生)



講演会のようす

医学科4年次 飯田 健治

3月に行われた同窓会講演会について、プログラムは1カ月ほど前から告知されていましたし、学年の連絡網でも参加の呼びかけが回ってきました。内容や宣伝をみると大変魅力的であり、おそらく人がたくさん来て暑苦しく、座れても窮屈だろうなあと予想をしていました。が、実際行ってみると、参加者はまばらで、そのためか先生方も学生の顔を見ながら語りかけるように話をしてくださり、とても興味深く聴くことができました。講演の内容も、いくら言っても言い足りない、といった感じで、話が佳境に入るにつれヒートアップし、教室は狭くなり熱気は溢れ、時間は止まりました。結局終了したのは予定時間を1時間以上過ぎてからだったと思います。



懇親会のようす  
(田名さん、蔵下さん、當間さん、仲本さん)

その後はがじゅまる会館に移動し、晚餐を囲んで、立食形式の懇親会となりました。メニューは、ソフトドリンクが多数、寿司、サラダ、チャンプルー、オードブル、和風煮付、果物、ケーキ等々、いわゆるひとつのごちそうが食べきれないほど出されました。いったいこれらを前にして話が弾まないはずがあるでしょうか。

まして主賓は後輩への愛に溢れた先輩方、一を聞かれればそこから学生の気持ちを汲み取り、今までの自らの経験も交え、十のことを教えてくださいといった具合で、感動ひとしおだったのを覚えています。自分は基礎医学に興味があったので、砂川先生に相談したところ、臨床での日常診療における基礎医学的な視点の重要性や、留学についての体験談などを伺うことができ、大変参考になりました。

機会があれば参加を検討されてみてはいかがでしょうか。



懇親会のようす  
(ありがとうございました。)



# 第101回 医師国家試験結果をふまえて

～過去の結果から見えてきたこと～

琉球大学医学部医学科同窓会

副会長 蔵下 要 (3期生)

去る3月29日、第101回医師国家試験の合格者が発表されました。今回の結果は琉大にとって再び厳しい状況突きつけられるものであったと言わざるを得ません。昨年は、琉大の合格率は88.2%で全国の医学部80校中57位、国立43校中32位と合格率回復の兆しが見えてきたかに思われましたが、今年の琉大の合格率は83.7%と全国の合格率（国立：90.3%、公立：91.1%、私立：84.7%）を大きく下回り、再び国立大の中で42位と転落してしまいました。新卒者だけでみれば91.0%と健闘はしていますが、国立新卒者の平均の94.1%を下回っています。ここ数年の低迷の原因を考えるために、単年度の結果で一喜一憂するばかりでなく、過去の国試の結果を今一度分析し、合格率の変化を見てみることにしました。まず、1期から11期（S62～H9卒）を前期、12期～21期（H10～H19卒）を後期とし、後期はさらに5年ずつに上半期と下半期とするとひとつの傾向が見えてきました。前期の琉大の平均合格率は91.2%と全国の国立大の平均を上回っており、11回の国試の間にトップ10が5回、トップ20が3回あります。後期上半期あたりから常時、全国の国立大の平均を下回るようになり、後期下半期では

国立大43校中、昨年を除けば、42位3回、最下位1回という状況です。この結果をどのように捉えればいいのでしょうか。前期11年と後期10年では、入学時の入試制度の変化、学年進級の際のシステムの変化、医学部学生のモチベーションの問題などいくつかの違いが指摘されています。合格率が良かった時と、悪くなった時で何が違うのかということを変更して考えて、改善策をたてる必要があるのかもしれない。昨年のこのコーナーで紹介された、防衛医大の例のように大学を挙げての国試対策を行うことも重要と思われませんが、まずは学生自身が、「もし国試に合格できなかつたら・・・」という危機感を持って、卒業までの間にしっかりとした準備をしていただきたいと思います。来年の卒業生の奮起を期待いたします。

同窓会としては、今後とも母校の国試対策に注目し、同窓会として何ができるのかを考えて、できる限りの協力をしていきたいと思えます。まもなく同窓会のホームページがリニューアルされますので、会員の皆様の叱咤、激励、ご意見などお寄せいただければ幸いです。

琉球大学医師国家試験合格率分析

卒期	卒業年	受験者数	合格者数	琉大合格率	全国合格率 (国立のみ)	平均順位 (国立43校)
1～11	S62～H9	1119	1020	91.2%	90.2%	16.5
12～16	H10～H14	574	498	86.8%	88.2%	30.8
17～21	H15～H19	564	474	84.0%	90.3%	40.2

琉球大学年次別医師国家試験合格状況 (平成19年3月)

卒期	卒業年	国家試験			全国合格 (国立のみ)	順位 (国立のみ)	順位 (国公立80校)
		受験者数	合格者数	琉大合格率			
1	S62	71	68	95.8%	91.0%	7	
2	S63	101	94	93.1%	85.8%	6	
3	H1	117	109	93.2%	91.0%	10	
4	H2	103	93	90.3%	87.3%	14	
5	H3	103	90	87.4%	88.3%	30	
6	H4	109	92	84.4%	87.0%	31	
7	H5	108	97	89.8%	92.3%	34	
8	H6	105	97	92.4%	88.4%	12	16
9	H7	104	93	89.4%	89.7%	20	34
10	H8	111	106	95.5%	91.5%	9	18
11	H9	87	81	93.1%	89.4%	8	19
12	H10	112	100	89.3%	90.5%	26	49
13	H11	108	93	86.1%	87.1%	23	36
14	H12	113	90	79.6%	82.4%	34	51
15	H13	114	101	88.6%	90.4%	40	59
16	H14	127	114	89.8%	90.4%	31	49
17	H15	106	90	84.9%	91.4%	42	72
18	H16	120	99	82.5%	90.5%	42	71
19	H17	107	86	80.4%	89.1%	43	74
20	H18	127	112	88.2%	90.0%	32	57
21	H19	104	87	83.7%	87.9%	42	66



## 国立・公立・私立大学別医師国家試験合格状況

順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格率
第1位	防衛医科大学校	100.0%	第28位	弘前大学医学部	92.1%	第55位	高知大学医学部	86.3%
第2位	東京大学医学部	99.0%	第29位	筑波大学医学専門学群	91.8%	第56位	日本大学医学部	86.2%
第3位	順天堂大学医学部	98.9%	第30位	岡山大学医学部	91.5%	第57位	北海道大学医学部	86.1%
第4位	滋賀医科大学	97.1%	第31位	京都府立医科大学	90.8%	第58位	東北大学医学部	86.1%
第5位	自治医科大学	97.0%	第32位	昭和大学医学部	90.6%	第59位	九州大学医学部	85.8%
第6位	山形大学医学部	96.9%	第33位	東海大学医学部	90.6%	第60位	熊本大学医学部	85.6%
第7位	横浜市立大学医学部	96.7%	第34位	広島大学医学部	90.4%	第61位	京都大学医学部	85.5%
第8位	新潟大学医学部	95.3%	第35位	大阪大学医学部	90.3%	第62位	東京女子医科大学	84.5%
第9位	名古屋大学医学部	95.2%	第36位	愛媛大学医学部	90.3%	第63位	宮崎大学医学部	84.5%
第10位	札幌医科大学	95.1%	第37位	大分大学医学部	90.2%	第64位	藤田保健衛生大学医学部	84.1%
第11位	信州大学医学部	94.2%	第38位	大阪市立大学医学部	90.0%	第65位	獨協医科大学	83.9%
第12位	島根大学医学部	94.2%	第39位	金沢大学医学部	89.7%	第66位	琉球大学医学部	83.7%
第13位	浜松医科大学	93.9%	第40位	福井大学医学部	89.7%	第67位	大阪医科大学	83.6%
第14位	三重大学医学部	93.6%	第41位	日本医科大学	89.5%	第68位	久留米大学医学部	83.2%
第15位	福島県立医科大学	93.3%	第42位	岩手医科大学	89.1%	第69位	杏林大学医学部	82.9%
第16位	群馬大学医学部	93.2%	第43位	名古屋市立大学医学部	89.0%	第70位	東京医科大学	82.8%
第17位	千葉大学医学部	93.2%	第44位	神戸大学医学部	88.8%	第71位	兵庫医科大学	81.6%
第18位	富山大学医学部	93.2%	第45位	和歌山県立医科大学	88.7%	第72位	埼玉医科大学	81.4%
第19位	香川大学医学部	93.1%	第46位	岐阜大学医学部	88.6%	第73位	川崎医科大学	78.5%
第20位	佐賀大学医学部	93.1%	第47位	山口大学医学部	88.3%	第74位	聖マリアンナ医科大学	78.4%
第21位	慶応義塾大学医学部	92.9%	第48位	鳥取大学医学部	88.1%	第75位	鹿児島大学医学部	78.4%
第22位	東京慈恵会医科大学	92.5%	第49位	奈良県立医科大学	86.8%	第76位	福岡大学医学部	78.0%
第23位	産業医科大学	92.3%	第50位	北里大学医学部	86.7%	第77位	金沢医科大学	77.9%
第24位	秋田大学医学部	92.2%	第51位	山梨大学医学部	86.7%	第78位	愛知医科大学	77.2%
第25位	東京医科歯科大学医学部	92.2%	第52位	徳島大学医学部	86.7%	第79位	近畿大学医学部	72.9%
第26位	東邦大学医学部	92.2%	第53位	長崎大学医学部	86.7%	第80位	帝京大学医学部	66.7%
第27位	旭川医科大学	92.1%	第54位	関西医科大学	86.5%			

## 第61回 西医体運営委員会設置

医学科同窓会の皆様、こんにちは。医学科2年次の江田はるかと申します。

突然ですが、皆様は西医体をご存知ですか？西日本医科学生総合体育大会、通称、西医大。みなさんの中にもこの大会に参加された方が数多くいらっしゃるのではないのでしょうか。そして、なんと2年後の西医大がここ沖縄で開催されることになったのです。私は第61回西日本医科学生総合体育大会運営委員長を務めさせていただくことになりました。今回は、同窓会報誌の紙面をお借りして西医体のことについてご説明させていただきます。

西医大は、今年で59回を数える歴史のある大会です。参加人数は約15000人、競技種目20種目、総予算およそ一億円という非常に大規模な大会であります。今年の京都大学、来年の広島大学に続いて、2年後にわたしたち琉球大学が主管することになりました。毎年各大学医学部が主管となって運営を行なうため、44年に一度のビッグイベントを2年後沖縄で開催できることになったのです。

わたしはこの大会をチャンスだととらえました。44年に一度の大きな大会の運営にたずさわるとは、自分にとって非常によい経験になるのではないかと。また、医学科の仲間とより一層の結束を深めることができると思ったからです。そのような期待と意気込みをもって、第61回西医大を成功に導きたいと思っています。

まずは同窓会の皆様に、西医体が沖縄で開催されることを知っていただきたい。そして少しでも大会に関わっていただきたいのです。西医体はわたしたち学生の大会ではありますが、大規模な大会のため、どうしても皆様のご協力が必要になってきます。学生と琉球大学医学部と医学科同窓会が一丸となって、この大会を進めていく必要があります。そのためにも、同窓会の皆様方のお力添えをいただきたいのです。

わたしたち学生は学業と両立しながら、成功に向けて精一杯がんばっていくつもりです。そして西医体を通じて、琉球大学医学部そして沖縄をより一層盛り上げていきたいと考えています。同窓会の皆様方も、どうかご協力のほど、よろしくお祈りします。

### 第61回西日本医科学生総合体育大会運営委員会メンバー

西医体理事会理事 成富 研二 (医科遺伝学分野 教授)	
運営委員長 江田はるか	連盟書記局長 本田奈々瀬
運営副委員長 金本 栄美	熱中症対策委員長 大嶺 卓也
競技委員長 小椋 奈緒	熱中症副対策委員長 下谷内奈々
競技副委員長 山城 千絵	安全対策委員長 小山 智史
総務会計委員長 伊波 孝路	安全対策副委員長 柴橋 英次
評議委員長 毛利 康一	ラグビー安全対策委員長 安木 大地



## 支部だより

### 第10回 同窓会西日本支部総会報告と 第11回同窓会西日本支部総会のご案内

第10回琉球大学医学部医学科同窓会西日本支部会は昨年（平成18年）11月25日大阪市北区堂山（たらふく）にて開催いたしました。多数の同窓が集いまことに盛況でありました。今回は是枝鹿児島支部長もご来阪いただきました。当日の参加者にて、幹事の選出、次回（第11回）開催日を採決し、開催日は本年11月24日と決定しました。これまで参加できなかった先生にもぜひ本年の総会へのご参加をお願い申し上げます。

同窓会西日本支部長 赤木幹弘（1期生）

記

幹事	支部長	赤木幹弘（1期）
	庶務（各期連絡担当）	
	1～4期代表	中西貞信（1期）
	5～8期代表	田中斎祐（8期）
	9～12期代表	植木隆介（10期）
	13～期代表	伊藤純（13期）
	会計	白井康博（1期）
	監査	川村俊彦（3期）

西日本同窓会事務局 〒598-0007泉佐野市上町3-3-1  
白井内科クリニック内

代表 白井康博（1期）

電話：0724-62-1877 FAX：0724-62-1844

E.Mail：dr-fukurou@opal.plapa.or.jp

（木、日、祝日は休）

次回開催 平成19年11月24日（第4土曜日）

以上決定しました。

同窓会西日本支部長 赤木幹弘  
akagi@ped.med.osaka-u.ac.jp



### 第5回 琉球大学医学部医学科鹿児島県支部会の報告

琉大医学部医学科同窓会会員のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。

本年3月10日に第5回となりました琉球大学医学部医学科同窓会鹿児島県支部会を開催しました。今回は平山清武名誉教授も出席して頂きましたが、常連の方々が国内留学中や学会などで出席できず8名と若干寂しい会となりました。

今回特筆すべきは19期生の大宜見咲子さんが参加された事です。彼女の明るく積極的なキャラクターで少人数にもかかわらず例年通り、いやそれ以上に盛り上がりました。大宜見さんは臨床研修後も鹿児島で後期研修をされるとの事で来年の第6回の幹事まで引き受けて頂きました。

次回の開催は来年の3月に予定しています。平成19年1月中旬までには詳細についての案内を出したいと思いますが、近隣県に在住の方々で出席されたい方は代表世話人までご一報ください。

代表世話人 1期生 是枝快房

独立行政法人国立病院機構南九州病院  
呼吸器科

〒893-5293

鹿児島県始良郡加治木町木田1882番地

TEL 0995-62-2121

FAX 0995-23-1807

E-mail; yoshifus@f3.dion.ne.jp



# 第46回九州・山口医科学生体育大会の成績

バレー男子	ベスト 8
バレー女子	3 位
バスケット男子	6 位
バスケット女子	予選敗退
硬式テニス男子	1 回戦敗退
硬式テニス女子	1 回戦敗退
バトミントン男子	
西山 直哉 (新人戦)	ベスト 16
バトミントン女子	
個人戦ダブルス	ベスト 16
仲宗根尚子・真地 生子	
空手男子 (団体戦)	準優勝
湊川 英樹 (個人戦)	準優勝
宮城 大雅 (個人戦)	3 位
河嶋 基晴 (新人戦)	準優勝
佐久川裕行 (新人戦)	3 位
空手女子 (団体戦)	3 位
加藤 暁世 (個人戦)	優勝
川上 智子 (個人戦)	準優勝
剣道男子 (団体戦)	予選リーグ敗退
道脇 悠平 (個人戦)	ベスト 16
玉城 啓太 (個人戦)	ベスト 16
藤野 亮介 (新人戦)	3 人勝ち抜き

剣道女子 (団体戦)	3 位
瀬嵩 万貴 (個人戦)	ベスト 16
大城登喜子 (個人戦)	ベスト 16
弓道男子 (団体戦)	12 位
弓道女子 (団体戦)	6 位
ボードセーリング (団体)	3 位
脇 大輔 (オープン)	1 位
白瀬 統星 (イムコクラス)	1 位
準硬式野球	予選敗退
サッカー	ベスト 8
ラグビー	ベスト 8
水 泳	
茂木 勝義 (50m自由形)	6 位
西尾沙矢子 (200m個人メドレー)	優勝 (大会新)
西尾沙矢子 (200m自由形)	優勝 (大会新)
卓球 (団体戦)	11 位
個人戦ダブルス	5 位
大山 泰志・三枝 正彦	
陸 上	
都 甲溪 (1500m)	4 位
徳岡 優生 (砲丸)	2 位
高野 優莉 (100m)	6 位
高野 優莉 (幅跳び)	4 位

## サークル紹介

### 書 道 部

皆さん、初めまして。今年新設された書道部部长・平良隆行 (29歳) です。

書道部の設立は、私が4年次の時、同窓会で部の顧問である増田先生と出会った事がきっかけでした。入学当初から、人より大きな字が書きたくて仕方が無かった私は、同窓会で増田先生が素晴らしい書家である事を知り、また、その場にいた後輩の尾田さんも書道に興味がある事を聞いて、書道部を立ち上げる事を決めました。

その後、紆余曲折あり、実際に部活が始まったのは1年後の今年4月からですが、部員も7人集まり、今は思う存分人より大きな字を書いています。活動場所はがじゅまるの多目的ホール、日時は毎週火曜17時～19時です。人間関係も、文化系特有の去るもの追わず、来るもの拒まずで凄く馴染みやすいと思うので、人より大きな字を書きたい方は、一度是非来てください！あなたを待ってますよ～！

顧 問：増田 昌人 (第2内科)  
部 長：平良 隆行 (5年次)  
活動時間：毎週火曜17時～19時  
活動場所：がじゅまる会館多目的ホール  
部 員 数：7名



### 医学部華道部

はじめまして。医学部華道部です。二年前に結成して今年で三年目の部活なので紹介できる機会をいただいて光栄です。華道部は、

顧問に医学部保健学科仲村美津枝教授を迎え、現在部部长4年次橋本剛をはじめ男子4名、女子11名の総勢15名で活動しています。活動は毎週水曜日の午後6時からがじゅまる会館3階和室で行っています。流派は小原流です。毎週小原流の坪倉豊香先生に来ていただきお稽古をしています。小原流の初心者ライセンスは初等科、本科、師範一科、師範二科と順にあり、このライセンスの取得を目指しています。ライセンスを取って就職活動に生かしたいという部員やただお花を活けるだけを楽しむ部員など様々ありますが、自由な雰囲気で行っています。随時部員を募集していますのでよろしく願います。



顧 問：仲村美津枝 (医学部保健学科 教授)  
部 長：橋本 剛 (4年次)  
活動時間：毎週水曜日18時～  
活動場所：がじゅまる会館3階和室  
部 員 数：男子4名、女子11名 (計15名)

## 中国医学研究会

こんにちは(^)/ 私たち中国医学研究会では、中国医学における医学のとりえ方や診断、薬剤について勉強しています。内容としては、例えば、陰陽五行論、五臓六腑(解剖学にあたります)、病因病機(病理学にあたります)、四診や八綱弁証(診断・診察にあたります)、方剤(薬剤にあたります)などが挙げられます(..)φ他にも、中国医学ならではの鍼灸や薬膳についても学び始めました!(^)! もちろん、勉強ばかりではありません! 新歓をはじめ、ビーチパーティーや薬膳の試食会など、みんなが楽しく中国医学と触れ合えるようなイベントもたくさんあります☆ 今年からは、中国への留学経験をお持ちの第一内科の日比谷先生も参加してくださり、盛り上がっている中医研です(^◇) 興味のある方は、今からでも全然遅くないので、ぜひ来てみてくださいね! 再受験の方も大歓迎ですよ(O)/



顧問：須賀原一博 (麻醉科学 教授)  
部長：秋吉 尚広 (4年次)  
活動時間：毎週火曜日 17:00～  
活動場所：がじゅまる会館3階セミナー室  
部員数：30名くらい (飲み会では人数が増えます)

## 地域医療研究会

離島の医療はどんな感じ? 卒業後離島で研修するには? 北部で産婦人科がたりない? はたまた…救急蘇生、AEDの使い方は? 沖縄の平均寿命が減っている? EBMとは…? 身近な医療を考えると、ちょっと気になるトピックスが沢山あります。

私達、地域医療研究会は毎週火曜日・がじゅまる会館で部会を行っています。部会では5～6人の部員が集まり(メンバーは不定、総勢15人くらいです)、調査してきたトピックスや進路、授業・勉強の情報交換などをがやがやと話します。

夏季休暇には毎年最大のイベントとして離島実習があります。昨年は西表島の診療所にお邪魔し、離島の医療、医療人としての生活に触れることができました。一年生から四年生まで、それぞれの立場で進路を考えることのできる貴重な機会です。

顧問：等々力英美  
(環境生態医学 准教授)  
部長：堀口 悠人 (4年次)



## 熱帯医学研究会

OBOGの先輩方こんにちは、熱医研です。熱医研は毎週金曜の部会に加え、20年以上続いている夏のタイ研修・宮古南静園研修のほか、秋の琉大祭出店、冬のタイ医学生受け入れなどを行っています。さらに今年初めてラオスの医学生二人を沖縄に招待することが出来ました。現在80名弱が所属していますが、部内はもちろん国内外問わず多くの人と出会い、『人の和の輪』を大切に活動しています。ホームページで活動の様子を報告しておりますので、よかつたらぜひ覗いてみてください。

HPアドレス：<http://samit.gozaru.jp/>

顧問：外間 実裕 (泌尿器科)  
部長：園田 梨絵 (4年次)  
活動時間：毎週金曜日17時～  
活動場所：がじゅまる会館3階和室



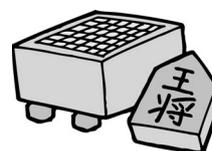
## ちよこつと料理部

活動日は不定期ですが、平均月1回、主に週末に活動しています。活動場所は部員の自宅が多く、アットホームな雰囲気です。簡単な料理から本格的な料理まで日本を含む世界の料理に挑戦しています。料理が得意な方も苦手な方も楽しめるサークルです。興味がある方は下記連絡先までご連絡ください。



顧問：等々力英美  
(環境生態医学 准教授)  
部長：米澤あづさ (医学科6年)  
部員数：20名  
連絡先：e024194@eve.u-ryukyuu.ac.jp

## 医学部棋道部



## 医学部軽音楽部

我々医学部軽音楽部は、男子32名、女子13名、総勢45名のサークルです。医学科を中心として、保健学科、他学部の学生も在籍しています。毎週水、金曜日の16:30~20:00、土曜日の9:00~17:00に



がじゅまる会館の音楽室で練習しています。

軽音とはいってもジャンルは様々で、邦楽、洋楽のポップス、ロック、パンク、メタル、ハードコア、弾き語り・・・などそれぞれ自分の好きな音楽をやっています。プロの曲のコピーバンドが主体ですが、オリジナル曲をやっている人もいます。

年間行事としては、五月に九山、七月には奥の山荘合宿、十月の琉大祭などで、そのほかに月に一回ほど長田キングタコスの近くのライブハウス K-mind で定期的なライブをしています。入場は無料ですのでよかったです一度足を運んでみてください!!

ホームページ <http://ip.tosp.co.jp/i.asp?I=ryukyukeion>

顧問：島袋 充生 (第二内科)  
部長：島袋 全志 (4年次)  
活動時間：毎週水、金曜日の16:30~20:00  
土曜日の9:00~17:00  
活動場所：がじゅまる会館の音楽室  
部員数：男子32名、女子13名 (計45名)

## 医学部バレー部

わたしたち医学部バレーボール部は、毎日楽しく練習しています。その結果、男子部は去年の九州・山口大会で準優勝☆、女子部は今年の九州・山口大会で3位♪と、良い成績を残しています。また、練習だけでなく、ビーチパーティーやみんなで遊びに行ったり楽しい事がいっぱいです。

バレーボールに興味がある人~!!初心者でも経験者でも大歓迎なので体育館に遊びに来てください☆☆

顧問：小川 由英 (泌尿器科学 教授)  
部長：藤崎弘志郎 (男子)、喜納みちる (女子)  
部員数：40名くらい (男女合わせて)  
活動日：月・水 (7:00~8:30[男女])  
土 (12:30~2:30[女子]  
2:30~4:30[男子])  
活動場所：医学部体育館



## 琉大合唱部

こんにちは。琉大合唱部です。

琉大合唱部では、毎年2回夏と冬に琉大病院で開催している『ほのほのコンサート』を中心に合唱の楽しさをみんなで感じる部活です。活動は毎週月・火・木の18時から20時までがじゅまる会館3階の音楽室でやっています。週1回からでも大歓迎です。是非来てください。

顧問：金谷 文則 (整形外科学 教授)  
部長：浅井 隆之 (3年次)  
活動時間：毎週月・火・木18時~20時  
活動場所：がじゅまる会館3階の音楽室



## 医学部硬式テニス部

私たち医学部硬式テニス部は、春の九州・山口医科学生体育大会、夏の西日本医科学生体育大会という団体戦を最大の目標に、日々黙々と……もちろん時には大いに賑やかに練習に励んでいます。



ついこの間の三月、想い出深い卒業生を送り出したかと思うと、慌しく春の大会への準備・強化練習に突入。四月になり初々しい新入生を仲間に歓迎しつつ、福岡での大会へ乗り込むも残念ながら敗退となり、帰島…。落ち込む間もなく改めて新入生との親睦を深めるべくビーチパーティーなど楽しみつつ、今度は夏の大会へ向けて徐々に練習が本格化していく、そんなテニスシーズン真っ盛りのあわただしいこの六月を過ごしております。

長い様であつという間のこの学生生活、部員と共に精一杯、努力し学び楽しんでゆけるよう頑張つて参ります。最後になりましたが、医学科同窓会の皆様、今後とも硬式テニス部をよろしくお願いいたします。

顧問：金谷 文則 (整形外科学 教授)  
男子部 部員数24名 部長 前村良弘 (4年次)  
女子部 部員数20名 部長 岩野真依 (4年次)  
活動日：毎週月曜・水曜・金曜 17:00~19:00  
活動場所：医学部テニスコート

## 医学部バドミントン部



はじめまして。琉球大学医学部バドミントン部です。私たちは顧問の福治康秀先生の下、男子26名・女子20

名の計46人で活動しています。医学科の学生の他に、保健学科や全学の他学科の学生も所属していて仲良く活動しています。

活動場所は医学部体育館で、月曜17:30~19:00 木曜19:00~20:30をノック形式で、金曜19:00~20:30 土曜10:30~12:30を試合形式で練習しています。

主な行事に、五月の九州山口医科学生大会、八月の西日本医科学生体育大会、沖縄学連大会といった大会の他に、ビーチパーティーやペンション、クリスマスパーティーといったイベントも行っていて楽しんでいます。興味のある方はぜひ体育館に遊びにきてみてください！

HP <http://ryubad.hp.infoseek.co.jp/>

顧問：福治 康秀（精神病態医学）  
部長：林 裕樹（4年次）  
活動時間：月曜17:30~19:00 木曜19:00~20:30  
金曜19:00~20:30 土曜10:30~12:30  
活動場所：医学部体育館  
部員数：男子26名・女子20名（計46人）

## 医学部剣道部

こんにちは、琉球大学医学部剣道部です。医学部剣道部は、男子7名・女子6名で週三回の稽古（月：17:00~19:00 木：19:00~20:30 土：12:30~14:30）を医学部体育館で行っています。

顧問は整形外科学准教授の大湾一郎先生で、部長は医学科4年次の玉城啓太です。また、通常の稽古とは別に、医師剣友会の稽古にも参加しており、棚原恵教範士八段を初めとした高段者の先生方にご指導を頂いています。最近の大会では、男子は第43回九州・山口医科学生体育大会、女子は昨年度の西日本医科学生体育大会でそれぞれ団体優勝を収めています。

剣道で汗を流したいという剣道経験者の方、また、剣道初心者の方でも、お気軽に見学に来てください。

顧問：大湾 一郎（整形外科学 准教授）  
部長：玉城 啓太（4年次）  
活動時間：月 17:00~19:00 木 19:00~20:30  
土 12:30~14:30  
活動場所：医学部体育館



## 医学部空手道部

医学部空手道部は、この春4名の新入部員を迎え、部員約30名で練習に励んでいます。

今年4月の九山空手道部門は、沖縄開催という事もあり、優勝目指して練習してきました。惜しくも優勝は逃しましたが、男子団体戦2位、女子団体戦3位、男子個人戦2・3位、女子個人戦1・2位、男子新人戦2・3位と、今後に期待できる好成績を収める事ができました。

現在は、8月に大阪で行われる西医体での優勝目指して、暑さに負けず頑張っているところです。

個性的な仲間達と心地よい汗を流したいアナタ！今からでも遅くないです!!

月・水曜の17:00~19:00、土曜の14:30~16:30に、医学部体育館でお待ちしています☆☆



顧問：國吉 幸男（機能制御外科学 教授）  
部長：佐藤 大幹（4年次）  
活動時間：月・水 17:00~19:00  
土 14:30~16:30  
活動場所：医学部体育館

## 医学部弓道部

私たち医学部弓道部は顧問の酒井寛先生のもと、主将荒殿ちほ子として、新入生13人を含む計26名で心・技の鍛錬に励んでいます。全学テニスコート横の弓道場で、火・木・土曜日に活動するほか、沖縄県弓道連盟の所有する道場での練習にも参加し、校外の先生方にもご指導いただいています。また、県内の試合や昇段審査に加え、年に2回、九山と西医体に遠征しています。

今年の5月に福岡で開催された九山では、去年に引き続き、個人戦において入賞者をだすなど、日頃の練習の成果を発揮することができました。

現在は、一年生の指導とともに、8月に大阪で開催される西医体にむけて日々精進しています。弓道は生涯スポーツですので、OB・OGの先生方も気軽に道場に足を運んでいただいて、一緒に汗を流したり、ご指導いただけると嬉しいです。

顧問：酒井 寛（眼科）  
部長：荒殿ちほ子（3年次）  
活動時間：火・木17:00~20:00 土 10:00~13:00  
活動場所：全学テニスコート横の弓道場



## 琉球大学医学部サッカー部

こんにちは。私達医学部サッカー部は月・水・土の週3日間、主に全学グラウンドで活動しています。部員はマネージャーを含め約20名で、サッカー好きが集まった楽しい部活です。九山、西医体はもちろんですが、一昨年から沖縄県社会人リーグにも参加しており、シーズン中は週に1回のペースで試合をしながら2部昇格を目指して頑張っています。

今年の九山大会では、惜しくも2回戦で敗退しベスト8という結果に終わってしまいましたが、現在は新入部員も加わり、8月の西医体に向けてまたチーム一丸となって日々の練習に励んでいるところです。これからも応援よろしくお願いします！

顧問：井上 治 (高気圧治療部 准教授)  
主 将：上原 正樹 (4年次) 090-5935-0645  
monkeymasa.de.uchina-00@docomo.ne.jp  
主 務：新垣 康 (3年次) 090-3077-1319  
g47135ffrat4hs2zmkjb@docomo.ne.jp  
練習日：月・水 (18:30~)、  
土 (10:30~) @全学グラウンド



## 医学部バスケットボール部

私達医学部バスケットボール部は、顧問の吉見直己先生のもと毎週火・木・土に医学部体育館で日々汗を流しています。また、部活以外の日も自主練習にはげみ個人のスキルアップに努めており、一人一人がやる気のある部です。

部の理念である、(甲)学生主体のクラブ活動(イ)部員としての自覚と責任を持って行動する(ウ)プレイヤー・マネージャーとしてチーム及び個人の目標達成に全力を尽くす(エ)目上の人には敬意を払い後輩の面倒をみて信頼関係を築く(オ)顧問への感謝の意を忘れない、を部員30名全員が目標とし、これからも頑張っていきます。よろしくお祈りします。

顧問：吉見 直己 (腫瘍病理学 教授)  
部 長：宮城 幹史 (5年次)  
活動時間：毎週火・木17:00~19:00  
土 16:00~18:30  
活動場所：医学部体育館



## 医学部準硬式野球部

準硬式野球部は、顧問の砂川元先生、部長の野原博和先生をはじめ部員数26名、うちマネージャー9名で活動しています。活動日は月・木・土の週3日で全学野球場にて練習しています。土曜日の全体練習は練習時間も長く厳しいですが、みんな元気よく声を出しながらいい雰囲気です。日が暮れるまで練習しています。

今回の九山では良い結果を残せず、悔しい思いをしました。西医体ではリベンジを果たして一つでも多く勝ちたいです。初戦はおそらく優勝候補が勝ちあがってくると思っているので、チーム一丸となってすべてをぶつきたいと思います。前回の西医体でのベスト8を上回る結果を報告できるように部員一同頑張りますので、応援よろしくお願いします。

顧問：砂川 元 (顎顔面口腔機能再建学 教授)  
部 長：新垣 朋弘 (4年次)  
活動時間：毎週月・木17時~ 土13時~  
活動場所：琉大全学野球場



## 医学部卓球部

こんにちは。私は医学部卓球部部長の大山泰司と申します。

私達卓球部は酒井哲郎先生の顧問のもと、火曜日7時~8時半・金曜日5時~7時に医学部体育館で練習をしています。

部員は医学部が7名に本学が12名と医学部の部活の中では本学の方が部員が多いという変わり種ですが、これにはわけがあります。

以前あった卓球部が1度なくなり、本格的に復活し今の形態で活動をし始めたのはおよそ2年前のことです。その当時本学のほうにも卓球部がなく、地元のつてもあり、本学の人とも医学部と一緒に練習をし始めたのがきっかけでした。それから本学の方は毎年部員が着々と増え今に至ります。そして、今年からは水曜は本学の第一体育館で7時半~9時半に練習に行っています。

また、自分はこのサークルにおいて何といっても「楽しく卓球を」というのをコンセプトにしています。その甲斐もあってか先日行われた九山ではダブルスで5位に入賞することができました。

今回の九山ではダブルス4強に入るべく頑張りたいと思います。

顧問：酒井 哲郎 (生理学第二 教授)  
部 長：大山 泰司 (4年次)  
活動時間：火曜日7時~8時半  
金曜日5時~7時  
活動場所：医学部体育館



## 医学部ハンドボール部

こんにちは。琉球大学医学部ハンドボール部です。再び佐藤良也教授の下、10年の年月を経てハンドボール部復活しました！

部長は3年次の當山千巖（トウヤマチヨシ）です。

今年の2月に復活したばかりで、部員は全学の選手、男女合わせて15～25名と不確定で、備品も完備できていません。

また練習も、医学部体育館火曜日夜7時～8時半、土曜日朝8時～10時半と、いまいち満足に練習できない状況にあります。

不甲斐ない部長ですが、部員に支えられつつ、元気よく切磋琢磨しながら練習しています。

先輩方の輝かしい功績をプレッシャーに感じながらも、追いつこうと頑張っていますので、応援よろしくお願ひします。

顧問：佐藤 良也（熱帯寄生虫学 教授）  
部長：當山 千巖（3年次）  
活動時間：火曜日 夜7時～8時半  
土曜日 朝8時～10時半  
活動場所：医学部体育館



## 医学部ボードセイリング部

九山個人優勝（脇大輔）・団体3位、昨年毎土日を海中道路で過ごしたボードセイリング部は九山強豪校に向けて復活してきています。

ボードにセイル（帆）をたてて、海を滑るように進むボードセイリングは、沖縄の風・海・空を相手に渡り合うスポーツです。南国沖縄の恵まれた環境の下部員一同真っ黒に日焼けして練習してきましたが、三年前、天気の急変で大切な先輩を失いました。

事故から三年間、安全面・練習の見直しを何度も行い、事故の再発防止を練り上げてきました。装備面・技術面・レスキューの手順などを一から考え直す期間でした。

今年は新入生8人（他学部3人含む）を加えた現役16人が海に出ています。層が膨らむ今年、互いに支えあい事故のない一年、自然を相手に成長していく部員達の一年を目指しています。

顧問：垣花 学（麻醉科学 准教授）  
部長：堀口 悠人（4年次）



## 医学部水泳部

医学部水泳部は石田肇教授に顧問をして頂き、現在部長の橋岡寛恵を含め、34名の部員が活動しています。昨年からの活動日数が増え、5月から9月の間は全学のプールを貸して頂き、水・土曜日の週2回練習しています。それ以外の季節では、毎週水曜日に北谷スポーツセンターのプールを使わせて頂いています。昨年多くの部員が入部し、今年度も他学部の部員を含めて6名が入部したことで水泳部は益々にぎやかになり、毎年新歓の一環で行われるビーチパーティは今年もとても盛り上がり終えることができました（写真）。また、今年度からは水泳の上達の手助けとなるよう、練習前に柔軟を取り入れました。水泳部は先輩方から受け継いできたことに加えて一年一年新しく進化しています。

顧問：石田 肇（解剖学第一 教授）  
部長：橋岡 寛恵（3年次）



## 医学部トライアスロン部

4月に石垣島トライアスロン大会があり、医学部6年4人、顧問1名が参加し、その直前に部として旗揚げした、出来たての部です。

顧問は第1内科の玉城佑一郎先生で、部長は医学科6年の高橋有和です。

部員は医学科6・5・4年の順に6・3・1名、保健学科3年が1名の逆トライアングルです。

練習は日曜日等に全学トライアスロン部と合同で、おもに公道でのバイク練習をします。レースが近くなると海で泳いだりもします。

部の特色としては、部内に数台の貸し出し用自転車があり、初心者や女性を広く受け入れている点です。

——完走する人が鉄人ではない。トライアスロンに挑戦しようと思う心や完走に向かって仕事や勉強の合間を縫って3種目も練習しようとする心構えが鉄人なのです。だから結果うんぬんは、個人や年齢層による価値観の違いであって、トライアスロンをやるうと思ひ行動したその瞬間からあなたはすでに鉄人なのですよ(v)（玉城より）——

マネージャーも大募集中!! 来たれ、若人!!

顧問：玉城佑一郎（第1内科）  
部長：高橋 有和（6年次）



## 医学部陸上部

医学部陸上部部長廣田圭昭です。医学部陸上部は、毎週水曜日に琉大グラウンドにて集合練習を行っています。顧問の森直樹先生は、顧問であるにも関わらず自らハーフマラソンを完走されたすごい人です。今年は多くの新入部員が入り現在部員13名で競技に取り組んでいます。陸上部は、普段医学部・全学の垣根を越えて共同で練習を行っているというユニークな部活です。

競技面では当然ながら、その他の面でもお互いに刺激を受け合えるという点で大変有意義なことだと思います。また、それぞれの部員が競技に真摯に取り組んでおり、それでいて顧問の先生を含めアットホームな雰囲気という不思議な側面も持っています。まだ部としては新しいので試行錯誤を行いながらやっている部分もありますが、全員で協力してがんばっています。

顧問：森 直 樹 (病原生物学 教授)  
部長：廣 田 圭 昭 (3年次)



## 医学部ラグビー部

「なんでラグビーやってるの？」  
これは大学に入ってからラグビーを始めた私がよく受ける質問です。

そんな時私はこう聞き返す事になっています。

「なんでラグビーやらないの？」

私たち琉球大学医学部ラグビー部は、現在部員20名・マネージャー8名の熱くて楽しくて激しくて厳しくてそれでいて優しくて心温かくて涙もろい最高の集団です。顧問の與古田孝夫先生もとても優しい先生です。

普段は月・木・土曜日に全学グラウンドで本気の練習をしています。一切妥協はありません。そして休みの日には本気で遊んでいます。もちろん妥協はありません。私たちの部活では1年365日、部員・マネージャーを熱烈に募集しています。きっかけはどんなことでも構いません。是非一度、私たちのラグビー部に来てみてください。きっと思うはずです。

「なんで今までラグビーやらなかったんだろう？」

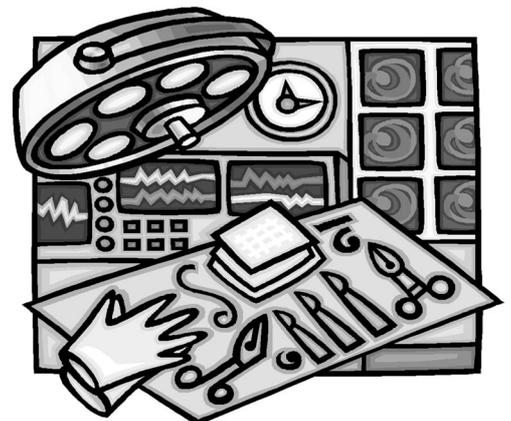
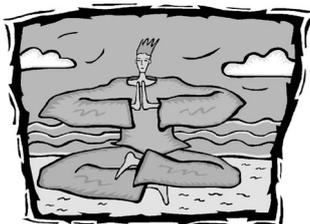
顧問：與古田孝夫 (精神看護学 教授)  
部長：岩間 友 (4年次)



## 医学部ヨガ部

こんにちは。部長の田島翔子です。私たちヨガ部は、部の顧問は解剖学第一講座の石田肇先生を迎え、2年前に同好会として発足し昨年からは部として活動しています。「ヨガを通して心と身体の健康の向上をはかる」ことを目標として、毎週月曜日17時～19時の約2時間ほど、がじゅまる会館3階和室にて活動しています。部員は全員で20名います。6年生が多いこともあり、なかなか思うように活動しにくい状況ではありますが、毎回5～6人でまったりとヨガをやっています。全員が初心者なので、興味のある方は遠慮なく見学にいらして下さい。勉強の合間にみんなでリラックスしましょう！

顧問：石田 肇 (解剖学第一 教授)  
部長：田島 翔子 (6年次)  
活動時間：毎週月曜日17時～19時  
活動場所：がじゅまる会館3階和室



# 学生近況報告

## ポリクリを終えて

吉田 善紀 (6年次)

こんにちは。初めまして、M6 学生評議員の吉田善紀です。

私たち6年次はついにポリクリが終了しました(この文章を書いている時点ではまだ自由選択実習が残っていますが)。私たちは全ての診療科を実習することができ、夜遅くまでオペ室で手術見学をしたり、カルテをチェックしてもらい直したりと厳しい診療科での実習もあれば、もう帰ってもいいのというぐらい楽な診療科もありましたが、終わってみればどの診療科での実習もとてもよい実習となりました。

今回の写真は、つい先日のポリクリ中に撮影した一枚で、地域医療部での高齢者体験スーツの体験中のものです。このスーツは、視野の狭くなるゴーグルを始め、各関節の可動域を抑えるサポータや、重りなどから構成されていて、高齢者と同じような体

験ができるという優れたもの(?)です(若干、姿はあやしいですが...)。実際、装着してみると、自分も歩道や階段などで高齢者の方々がしていたのと同じ動きをしていて、どのような理由で高齢者の方々がゆっくり階段をおいたり、すり足になったりしているのかを体感できたようで、とてもよい実習になりました。日々、他人の気持ちになって考えて行動するようになると、そのことの大切さを知っているつもりでも、実際にはなかなか実践できませんが、今回一日実習ただけで今までよりずっと高齢者の方々が身近に感じることができ、またその気持ちも少しわかったような気分になりました。

さて、これから先、夏休み終わると卒試・国試と試験ばかりが控えていて、試験勉強ばかりの毎日になってしまうことが予想されますが、国試に合格して来年から医師として働く時までポリクリ実習で学んだ様々なことを忘れないように心がけ、しっかり勉強をして試験ラッシュに向かっていきたいと思います。



## 5年生になって

手登根 勇人 (5年次)

はじめまして。医学科5年次の手登根といいます。今回は5年生がどういうことをしているか知っていただけたらと思い筆を走らせています。

時が経つのは早いものであっという間に5年生になってしまいました。そして学生生活も残すところ僅か2年となってしまいました。少ない学生生活を遊んで過ごしたい方もいるかと思いますが、この残り少ない学生生活のうちの半分はポリクリという臨床実習をして過ごすことになります。そこでは我が琉球大学のすべての科を回るのです。この場では実際に医療を学ぶだけでなく、患者さんに接していきます。4年生までの勉強は机上ですべて行い、そ

こには実際の患者さんはいません。実習とこれまでの勉強の違いは患者さんを強く意識していくかどうかにあると思います。そのような中で過ごしていると勉強のモチベーションがググンと上がります。きっと他のみんなもそうだと思います。ほら、その証拠にみんなもうすでに国試の勉強も始めています。2年後の国家試験の結果が本当に楽しみです。

という感じで私たちは5年生は実習の日々を過ごしています。みんなそれぞれ忙しそうにしていますが、話を聞いてみると充実している時を過ごしているようです。この調子で楽しくポリクリ生活を送っていったらなと思います。



## 4年次前期の実態

川上 智子 (4年次)

4年次前期の授業は、3年次の後期から始まった臨床系の講義が引き続き行われ、5月中に1科目、6月中に4科目のポリクリ移行試験を受けた後、6

月の後半からは、基礎配属・離島研修・保健所実習に入ります。

基礎配属では、3年次の前期までに学んだ基礎系の講座(解剖学・生理学・生化学・微生物学・免疫学・病理学・薬理学・医科遺伝学・保健医学)の中から、自分の興味のある科目やもっと学習を深めたいと思う講座を選び、研究室に2~3週間通って勉強させて頂くというものです。ちなみに私は、授業

を受けて興味を持った病理学講座に行かせて頂くことになっており、非常に楽しみにしています。

離島研修は、昨年から地域医療部の発案で始まったプロジェクトの一環で、宮古・八重山・久米島のいずれかの診療所に1週間実習に行かせて頂くというものです。皆さんご存じの通り、離島医療は沖縄で医療に携わる者にとって避けては通れない重要な課題です。今回の離島研修は、地域に根ざした医療を体感できる貴重な機会なので、4年次のこの時期に授業の一環として研修に行かせて頂けることは、大変意義深いものになると思います。私は、久米島の診療所の方に行かせて頂くことになっています。基礎配属同様、非常に楽しみです。

保健所実習は、保健医学の学習の一環として、県内・県外の保健所に1週間実習に行かせて頂き、公衆衛生や予防医学を始めとする地域保健を体感するというものです。県内では北部・中部・中央・南部・宮古・石垣の各保健所に、県外では各自でアポイントメントをとって個々人の出身地などの保健所に、それぞれ研修に行くこととなります。私は、8月の帰省中に、地元である島根県出雲保健所の方に行かせて頂きます。私は将来、沖縄か島根で医療に携わりたいと思っているので、この機会に島根・出雲の地域保健に触れられるのは貴重な経験になると思います。

このように4年次前期では、教室で一日中座って授業を受け続けるというマンネリ化しつつある日常から離れて、様々な経験をすることが出来ます。また、私を含め、部活動に所属している人にとっては、4年次の前期は、生活の大部分を部活動が占めていると言っても過言ではありません。体育会系の部活動では、3年次の後期から4年次の前期までが幹部学年なので、勉強は必要最低限、エネルギーのほとんどを部活動に費やすという日々になります。その中で授業を受け続けるのは非常に辛いものがあるというのが本音であり、そういった意味でも、授業から離れて色々な実習が出来るというのは良いリフレッシュの機会になり、大変有り難く感じています。

部活動に所属していない人にとっても、4年次の前期は比較的余裕をもって過ごせる時期なので、自分の興味のある事に時間を割いたり、人間としての幅を広げる事が出来る良い時期だと思います。現4年次はもとより、これから先、下級生の皆さんが4年次になられた際には、是非充実した時間が過ごせるよう願っています。



## 学士編入生として

泉 絢子 (3年次)

今、医学部には学士編入制度という入学制度があります。これは高等学校卒業後、すぐに医学部・歯学部に入学者と比べて、様々な経験広い視野と明確な目的意識を持った学生を入学させることを目的とし、さらには医・歯学以外の分野を修めた者に道を開くことにより、医学と他領域の学問分野の融合を図ると共に医学・歯学のさらなる発展を図ることを目的とする制度です。私はこの学士入学制度を利用して、医学科3年次にこの4月に編入しました。沖縄に来て3ヶ月以上経ちましたが、沖縄での生活は驚きの連続で、新鮮な日々を過ごしています。授業も3年生の正規の授業に加えて2年生で履修する専門科目についても授業、もしくは試験を行っているため息をつく間もないほどです。しかし、解剖学や微生物学といった専門科目は自分が医学部に入学したことを強く実感させてくれています。

学士編入のもう一つの目的として「一般学生が豊かな経験と人間性を有する学士編入学生と共に学ぶことにより触発され、さらなる学習に対する高

いモチベーションを誘発する」ことが考えられています。確かに学士編入学生は志望動機として一般学生よりも強いものがあると思います。しかし、一般学生の学習意欲は充分高く、逆に私たち学士編入生がモチベーションを誘発されている面も多々あります。特に試験対策としての勉強会だけでなく、卒業生や病院の先生方をお願いをして、臨床に繋がるような内容の勉強会も学生自らの手で実践されており、医学生として身を引き締めて勉強しなければと感じています。

学士編入と言う制度は入学後のカリキュラムが厳しく、授業の調整をしていただいている先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。これから先、一般学生に溶け込みつつも、学士編入生としての個性も忘れずに、自分に何が出来るのかを考えて4年間過ごしていきたいと思っています。



## 医学科 2 年次となって

金本 栄美 (2年次)

琉球大学に入学して1年が経った。2年次の今、また梅雨が訪れている。去年と同じ気分屋の雨と、圧迫すら感じる高い湿気が、1年間という時間が過ぎたのを告げる。

2年次となって、専門科目の勉強がはじまった。この1年間では、主に健康な体の仕組みを勉強する。体内で起こる種々の化学反応や骨や筋肉の構造および働きの勉強、解剖実習、論理的な思考を培うトレーニングなどがその内容となる。最近4週間程度を割いて、骨学の実習があった。頭部や上肢下肢、胸部や腰部などあらゆる部位の、様々な大きさの骨を実際に目で見て手で触り、その構造や形、働きなどを参考書やテキストなどを用いて、学ぶというものであった。骨について学べば学ぶほど、ヒトの身体がいかに合理的につくられているかがわかり、その過不足のないつくりに驚いた。骨学は医学生として、医学に対する更なる興味と、その学びへの意欲がますます強く湧くものとなった。学ぶ意欲が強くなったのは私ばかりではない。

## 琉球大学医学部医学科に入って

親富祖 さやか (1年次)

受験生活が終わり、やっとスタート地点に立つことができ本当にうれしく思います。家族をはじめとする、周囲の人々の応援があったからこそ自分の信念を貫くことができたと考えています。また、このような文章を書く機会を与えてくださった関係者の方々に感謝申し上げます。

まず、私が医師を志すようになったことを書きたいと思います。特に医師になることを周りから強制されたわけではなく、私は幼いころから小さな離島の診療所で働いていた医師である父の姿を見てきたという影響もあり、自然に医師になりたいと思うようになっていました。

その父が足掛け4年の診療所の勤務を終えた後、母校の大学院に進むことになり、家族で関東にある大学内の職員住宅に移り住むようになりました。当時、私は小学校1年生でした。その頃から大勢の医学生に日常的に接し、医師の仕事さをさらに身近なものに感じていました。そして、クラスメイトの父兄の方でPTAの役員をしながら、仕事をこなしている大勢の女性医師がいることを知りました。女性にとって、医師の生活は実に多様性があ

私の友人たちは必修の講義が終わると、毎日のように実習室へと足を運び、骨学の自学習に取り組んでいた。それに触発されて私やその友人も実習室へ自ら勉強に行くようになっていったのである。医学生としてお互いに刺激しあい、勉強に精を出せるのは恵まれた環境であると私は考える。

「無駄があるから豊かになる」。これは私の好きな言葉である。学生生活にもこの言葉は当てはまるだろう。時には旅行へ行ったり、好きなアルトサックスを演奏したり、料理の研究やボランティア、ダイビングへ出かけたりと勉強以外のことに時間を費やし、喜びや悲しみや感動を体験していくからこそ、人は豊かになれるのだと信じている。医学生として勤勉であることは求められる態度である。これからも、友人と切磋琢磨して勉学に励みつつ、様々な経験を通して将来の糧としていきたい。



り、また働きがいのある仕事だと感じました。こうしたことが私の医師を目指す動機になったと思います。

10年後の私が何を専門にして働いているのか、まだわかりません。医師を志した以上、生涯にわたって学習し続けなければいけないと思います。努力することを私はもともと苦にしない性質なので、自分のやりたいことと地域が求めていることを見つけ、私なりに沖縄の医療に貢献していきたいと思います。

これからは高校や受験生活とは異なり、皆と協力し合いながら勉学に励み、キャンパスライフを楽しみたいと思います。



## 医学科新入生の保護者の皆様へ

今年4月に入学された医学科新入生の保護者の皆様へ、同窓会会費の納入（6年間一括で3万円）のお願いをいたしましたところ、多くの保護者の皆様から会費のご納入をいただきました。誠にありがとうございました。

評議員会および総会にて会費の件が審議され、「学生会員（平成16年4月入学）から、在学中も同窓会会費をお願いする。支払い方法は、入学時に6年間分の会費を一括払い（3万円）をお願いする。学生会員向け事業を拡充する。」ことが決まりました。

同窓会の活動にご理解をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

本同窓会は今後とも皆様のご子弟の大学生活が実りあるものになりますように、学生会員向けの事業をなご一層拡充するように努力してまいりますので、今後とも御協力を宜しくお願い致します。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 会員の皆様へ会費納入のお願い

会員の皆様には同窓会会費納入に御協力いただきありがとうございます。同窓会活動は、医学科新入生および正会員の皆様からいただく年会費によって成り立っております。今後意義のある活動を維持・継続させていくには、さらに多くの皆様の御理解と御協力が必要となります。会費納入率が平成14年（48%）、平成15年（45%）、平成16年（42%）、平成17年（38%）、平成18年（33%）と悪化し、年々納入率が低下しています。このままでは同窓会の存続が危ぶまれ、本会の諸事業を施行する上で重大な支障を来すこととなります。

今回も年会費の振り込み用紙を同封しておりますので、振り込み用紙に印刷している各会員個人の納入状況をご確認の上、会員の皆様には至急納入のご協力をお願いいたします。また、同時に銀行口座振替（銀行引落し）の手続きを、ぜひお願いいたします。